

横浜型地域包括ケアシステムの 構築に向けた金沢区行動指針



金沢区幸せお届け大使
ぼたんちゃん

平成 3 0 年 3 月
金 沢 区

目 次

- 1 地域包括ケアシステムの構築に向けた区行動指針の位置付け・・・1
 - (1) 指針の目的
 - (2) 他計画等との関係

- 2 金沢区の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - (1) 区の概要
 - (2) 区の特徴
 - (3) 区の課題等

- 3 金沢区の実組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - (1) 健康づくり・介護予防
 - (2) 多様な主体による生活支援の充実
 - (3) 在宅医療・介護連携
 - (4) 認知症対策

1 地域包括ケアシステムの構築に向けた区行動指針の位置付け

(1) 指針の目的

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるためには、健康づくり、介護・認知症予防、保健、医療、福祉、生活支援、生活の場が一体的に提供される、日常生活圏域ごとの包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が必要です。

地域包括ケアシステムは抽象的な概念でわかりづらいとする意見もありますが、横浜市では、国等に先駆けて身近な福祉保健の拠点として日常生活圏域（おおむね中学校区）ごとに地域ケアプラザを整備し、さまざまな取組や地域のネットワークづくりを進めてきました。また、金沢区では、地域と地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所が一体となって地域課題の解決に向けて協働する体制（地域支援チーム）づくりを進めてきました。

こうした成果を踏まえたうえで、団塊の世代が75歳以上になり、医療や介護の需要が増加すると見込まれる2025年（平成37年）に向け、金沢区の特色にあった「地域包括ケアシステム」を着実に構築していくことが求められます。そのためには、これまで以上に地域と保健・医療・福祉がそれぞれの分野を超えて有機的な連携を深めていく必要があります。

「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、金沢区がどのような方向性をもって地域や関係機関・団体等と目標を共有し、着実に取組を進めていくか、その考え方をとりまとめ、金沢区行動指針を策定しました。

(2) 他計画等との関係

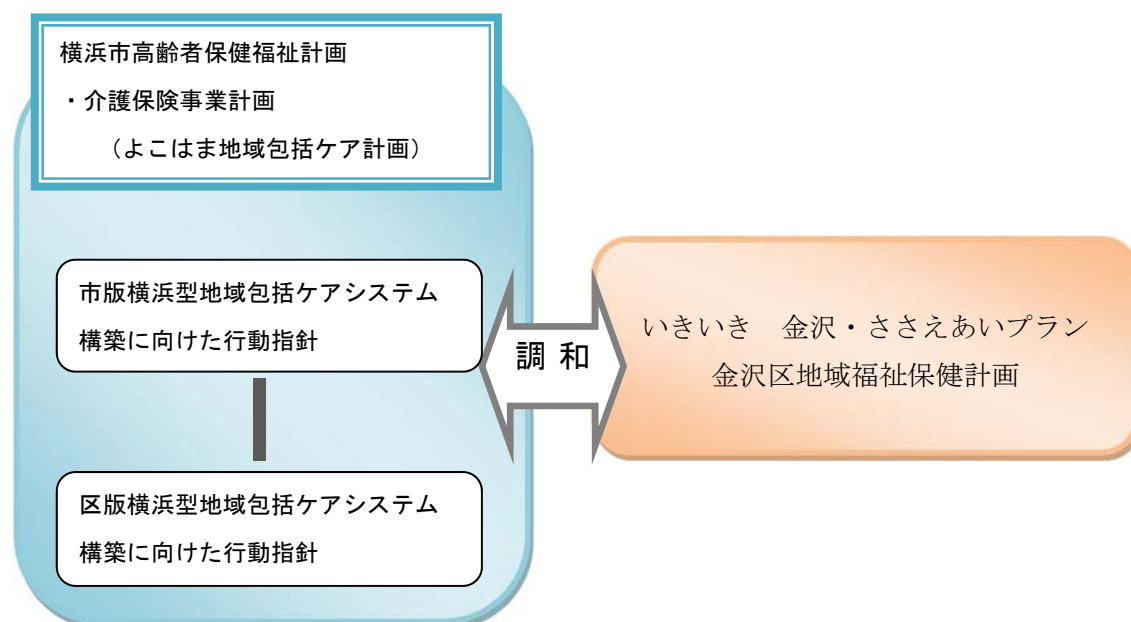
本市では、2015年3月策定の「第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2015～2017年度）（以下、「第6期計画」）において、第6期計画を「よこはま地域包括ケア計画」と位置付け、2025年までに「横浜型地域包括ケアシステム」を構築することを目指しています。

指針（市版・区版）は、第6期計画を踏まえて、本市が2025年までに横浜型地域包括ケアシステムを構築するための具体的な方向性を示すものです。第7期計画（2018年度～2020年度）からは、指針（市版・区版

骨子（概要）の内容を計画に位置付けます。また、指針（市版・区版）の内容については、計画改定時に、適宜見直します。

金沢区地域福祉保健計画との関係ですが、介護・医療・住まいの分野については地域包括ケアシステムを中心に進めていく分野としていますが、介護予防分野・生活支援分野については、地域福祉保健計画の中でも住民と協働で取り組んでいくものが多くあり、両者を連動させながら、介護予防・生活支援が充実した地域づくりを進めていく必要があります。

<他計画との関係>



※地域福祉保健計画について

地域福祉保健計画とは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指し、住民どうしの支え合いを柱として、地域の身近な生活課題の解決に向け、住民・事業者・行政が協働で取り組んでいくための計画です。

※金沢区地域福祉保健計画について

金沢区地域福祉保健計画は、「区域計画」と「地区別計画」で構成されています。

「地区別計画」は、地区ごとの生活課題に対応するため、連合町内会の範囲を単位とした14地区において地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会町内会関係者等が協議し、地域に暮らす人を中心に自ら取り組む計画としています。



地域ケアプラザは横浜市独自の施設です。

横浜市では、身近な場所で総合的に福祉保健サービスを提供していくために、1991年から独自に地域ケアプラザの整備を進めてきました。2018年1月現在で市内139か所、金沢区では9か所が設置され、今後更に1か所の設置が予定されています。

地域ケアプラザには福祉保健の身近な相談窓口として「地域包括支援センター」が設置され、様々な個別課題の把握をするとともに、日常業務や地域住民とのつながりをとおして豊富な地域情報を収集しています。また、個別課題にとどまらず、地域の課題を把握し、課題解決に向けた取組を主体的に行うとともに、それらの活動をつないで、地域の中で、見守り、支え合う仕組みづくりを行うなど、地域支援の中核的な役割を担っています。

地域ケアプラザ＝横浜市独自施設

地域包括支援センター【包括】と地域活動交流部門【地域交流】を併設しているのは横浜市のみ

地域
ケアプラザ
ココが
スゴイ！

他都市と比較してみると...

〈他都市〉包括は特別養護老人ホームに相談コーナーのみ
〈横浜市〉相談部門と活動拠点が一緒！

～介護予防教室の帰りなどに気軽に相談できる！

- 包括で把握した個々の課題を地域交流が連携し地域に働きかけて地域全体で取り組んでいくことができる！
～食事に困っている人が多い＝食事会、配食サービスへ
- 必要な人に的確に支援が届ける仕組みづくり
- 幅広い市民参加による地域福祉推進を目指した地域福祉保健計画の推進役

社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指し、地域団体、ボランティア、福祉保健関係者の参加・協力を得ながら、一緒に地域の福祉問題の解決

を考え、実行していく民間団体です。

★区社会福祉協議会★

金沢区社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会への支援、ボランティアセンター事業や移動情報センター事業、当事者活動支援、送迎サービス事業、あんしんセンター（権利擁護）事業、福祉教育の推進をはじめ、子育て支援、障害児者支援、高齢者支援に関する事業などを実施しています。

★地区社会福祉協議会★

金沢区内には14の地区社会福祉協議会があり、当該地域における福祉推進を目的として組織され、地域の課題解決を目的とした様々な活動を行っています。

地域の個人や団体が会員となり、「福祉のまちづくり」を目的に組織された団体で、自治会町内会、民生委員児童委員、ボランティア、当事者組織、社会福祉施設などで構成されています。

2 金沢区の現状

(1) 区の概要

金沢区は、横浜市の南端に位置し、東は東京湾に面し、南は横須賀市、逗子市、鎌倉市に、西は栄区に、北は磯子区に接しており、地形としては、丘陵地が多くを占める地域となっています。

歴史をたどれば金沢区は、鎌倉文化の中心地の一つとしての役割を担い、その遺産は称名寺や金沢文庫を始め数多く伝えられています。

1948年に磯子区から独立して金沢区が誕生し、1960年代からは大規模な宅地開発が行われ、ベッドタウンとしても発展してきました。1988年には約660万平方メートルにも及ぶ金沢地先埋立事業が完成し、臨海産業地域としても発達を遂げ、また海の公園には市内で唯一の海水浴場もオープンしました。1989年には、金沢動物園と新交通システム・金沢シーサイドラインが開業し、1993年には横浜・八景島シーパラダイスもオープンしました。2018年には区制70周年を迎えます。

横浜市における金沢区の位置



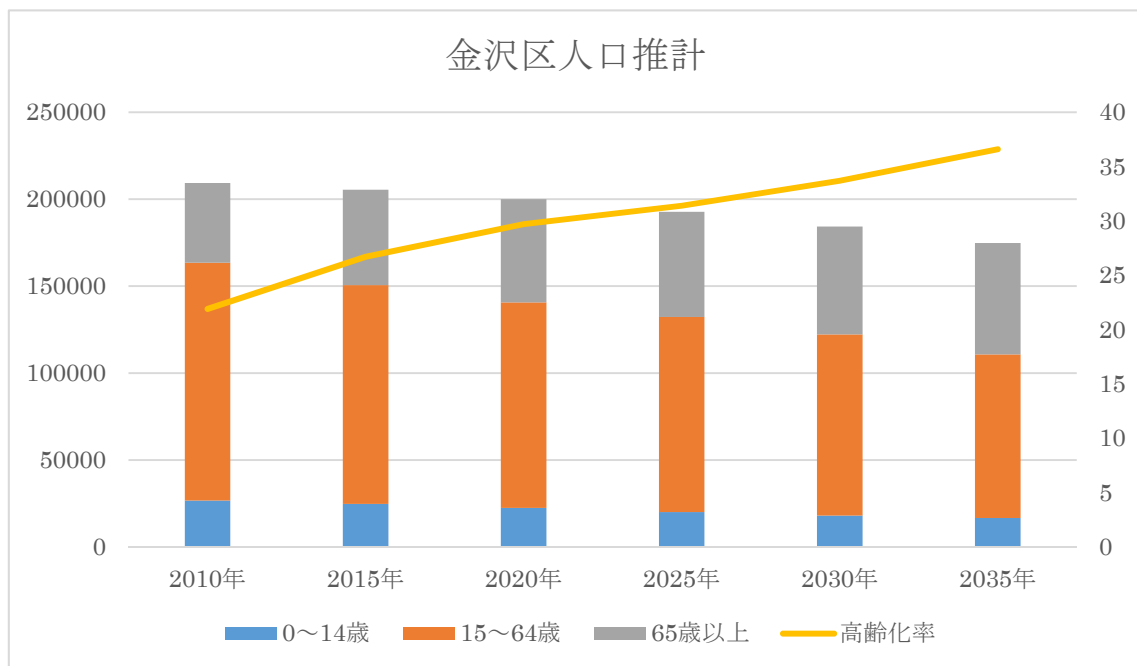
金沢区の全域図



(2) 区の特徴

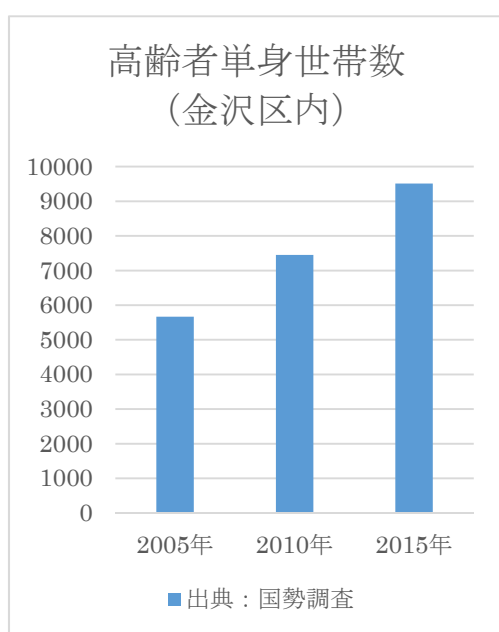
金沢区は古来より風光明媚な地として知られ、名所・旧跡など歴史的、文化的遺産も多い魅力あるまちです。区民の皆様を対象としたアンケート調査（2011 年度区民意識調査）の結果からは、これからも金沢区に住み続けたいという定住の意向が高いことが分かりました。また、自治会町内会への加入率が82.1%と高い（2017年4月1日時点で18区の中で2番目に高い）ことから、地域に愛着を持っている区民が多いことも伺えます。

金沢区の人口は2006年まで増加していましたが、以降は減少が続いています。一方、65歳以上の高齢者は2017年3月31日時点で56,516人、高齢化率は市平均を上回る28.2%（市平均は23.8%）で、地区によっては高齢化率が既に30%を超えているところもあります。高齢者は2012年～2017年の期間に8,970人増加し、高齢化率は5年間で5.3ポイント（市平均では3.4ポイント）上昇しました。



(3) 区の課題等

高齢化の進行や家族形態の変化に伴い、高齢者が単身で暮らしている世帯や要介護状態にある人の数が増加、近隣関係の希薄化により、困ったときに身近に相談できる人がいないなど、社会的に孤立しがちな人が増えてくることが予測されます。これからも金沢区に住み続けたいという思いに 대응するためには、医療・介護の連携、地域での見守りや支え合いの仕組みづくり、認知症対策、介護予防などが重要な課題となっています。



金沢区では、各地区の住民どうしの話し合いをもとに、2016年に第3期金沢区地域福祉保健計画（区域計画及び各地区別計画）を策定しました。この計画には、上記の課題への対応等を含めた地区ごとの取組や目標が掲げられており、各地区の住民と地域支援チームの協力により課題解決に向けた取組が進められています。

地域支援チームとは



金沢区では、少子高齢化の進行や若い世代の区外への転出などが原因となり、高齢者単身世帯の増加や要介護認定者の増加、災害時要援護者への支援など、多様で複雑な生活課題が顕在化してきています。

こうした様々な地域課題に対し、地域と区役所等が協働して解決に向けた取組を進めていくため、金沢区では「地域支援チーム」を組織して地域とともに活動しています。金沢区地域支援チームは、区役所各課の垣根を越えて横断的に組織し、区社会福祉協議会と地域ケアプラザを合わせた総合的なチームとなっています。さらに、地域防災拠点の参与も地域支援チームと一致させており、幅広い地域課題に対して、一つのチームで対応できる体制となっています。

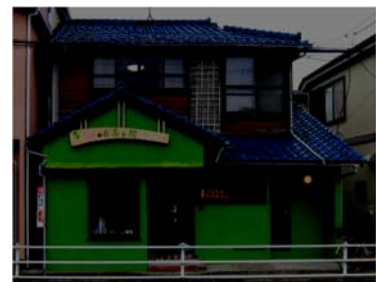
<取組事例>



2016年11月、六浦東地区に空き家を活用した地域の拠点「もりのお茶の間」が誕生しました。地域住民が力を合わせ完成しましたが、補助金制度の活用や関係者との調整などで地域支援チームが後方支援し、区・地域ケアプラザ、区社会福祉協議会も一体となって拠点づくりに貢献しました。

耐震補強工事から内装工事まで地域住民や協力者延べ600人以上の力を合わせて完成した「もりのお茶の間」

地域支援チームも協力！
ヨコハマ市民まち普請事業のサポート
耐震工事当初からの協力等



3 金沢区取組

金沢区では、以下について重点的に取り組みます。

- ◎健康づくり・介護予防
- ◎多様な主体による生活支援の充実
- ◎在宅医療・介護連携
- ◎認知症対策

これらの取組を進めるにあたっては、課題の抽出・共有・解決のためのツールである地域ケア会議、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが一体となった地域支援チームなど、あらゆるツール、力を活用しながら取り組んでいきます。



(1) 健康づくり・介護予防

健康づくり・介護予防とは、健康でいきいきと暮らしていくための健康寿命の延伸を目指す取組や、元気な人が介護の必要な状態にならないように、また、介護が必要な人もできるだけ心身の機能を維持・改善できるようにしていくための取組です。

心身の老化を防ぎ、自分でできることの範囲を維持していくことで、いつまでも自立していきいきと暮らすことができるよう、元気なうちからの健康づくり・介護予防を推進していきます。

【2025年に向けた目標】

○身近な場所で、仲間と一緒に主体的に健康づくりに取り組む機会を拡充します。

○多様な主体の参画により、地域の支え合いの中での介護予防の取組を推進します。

【取組の方向性】

地域とのつながりの中で健康的な生活を送る人が増えることで、一人ひとりがいつまでも自分らしく健やかに暮らせるよう、身近な地域の資源をいかしたウォーキングや健康講座、スポーツイベント、趣味、地域貢献等の様々な活動を通じた健康づくり・介護予防の取組を促進していきます。



健康ウォーキング

【関係団体の役割分担】

(区役所・地域ケアプラザ)

- ・元気づくりステーション等の立ち上げ及び活動の支援
- ・ウォーキングイベント等の開催及び開催支援による健康づくりの促進
- ・介護予防にかかる人材育成
- ・介護予防普及啓発事業
- ・地域介護予防活動支援事業

(区社会福祉協議会)

- ・介護予防に関する情報発信



ロコモティブシンドローム予防

- ・介護予防を推進する人材の把握及び支援

(2) 多様な主体による生活支援の充実

地域包括ケアシステムの構築は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた喫緊の課題であり、高齢者一人ひとりができることを大切にしながら暮らし続けられるために、多様な主体が連携・協力する地域づくりに取り組む必要があります。

【2025年に向けた目標】

○高齢者自身が孤立することなく、生きがいや役割を持って、自分らしく暮らし続けられるよう、様々な支え合い・社会参加の機会のある地域づくりを目指します。

【取組の方向性】

ちょっとした困りごとを身近な住民同士で解決する「ちょいボラ」など、住民主体の共助により見守りや支え合いの仕組みを広げていきます。また、地域における顔の見える関係づくりを進めるため、誰もが参加できるサロンの立ち上げを促進します。

地域の各団体が『要支援者等』に対する介護予防や生活支援の活動をしやすくなるよう、補助制度を活用しながら支援します。

また、様々なサービス提供主体を交えての協議の場を持つことで地域課題に対応したサービスや資源の創出を目指します。

【関係団体の役割分担】

(区役所)

- ・区域協議体の開催（区域で活動する団体、企業との連携）
- ・生活支援コーディネーターへの支援
- ・「茶の間」支援事業、ネットワーク支援事業、福祉保健活動促進補助金などによる団体の立ち上げ・活動の支援
- ・生きがい就労支援スポットとの連携による高齢者の社会参加の場の拡大

(区社会福祉協議会)

- ・ 区域協議体の開催（区域で活動する団体、企業との連携）
- ・ 2層生活支援コーディネーターとの連携（連絡会開催・研修実施等）
- ・ 地域住民との連携（住民支え合いマップ研修等開催）
- ・ いきいき金沢助成金を活用した団体の立ち上げ・活動の支援
- ・ ボランティアセンターによる地域の支え合い活動支援

（地域ケアプラザ）

- ・ ちょいボラ、サロンの立ち上げ・活動支援
- ・ 多様な主体との協議等による資源の創出
- ・ 新たな担い手となる人材の発掘



龍華寺でのサロン「わっか」

（3）在宅医療・介護連携

高齢者が疾病を持ちながらも、住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができるためには、適切な医療・介護サービスが提供される必要があります。そのためには、医療と介護の関係者が連携していくことが不可欠となっています。

【2025 年に向けた目標】

○三師会・在宅医療相談室と区における現状・課題の共有や解決に向けた話し合いを行い、医療と介護の連携を強化することにより、金沢区に在住する高齢者等が住み慣れた地域で安心して、在宅生活を送れるようにします。

【取組の方向性】

在宅医療・介護には非常に多くの職種（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、ケアマネジャー、ホームヘルパー、救急救命士、作業療法士、理学療法士等）が関わっています。在宅医療・介護の連携のためにそれぞれの役割を考え、お互いの職種を理解し、信頼し合える関係を築くことを目指します。

職種間の情報を共有するためのツールを作成するなど具体的な連携にも取り組めます。

【関係団体の役割分担】

(区役所)

- ・在宅医療相談室支援（運営委員会等への出席、研修・講演会等開催支援）
- ・医療と介護事業者との連携促進（在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修の開催、金沢区在宅医療・介護関係団体・機関連絡会の開催）
- ・地域への普及啓発（広報誌への掲載）
- ・連携ハンドブックかなざわの改訂・周知

(地域ケアプラザ)

- ・地域連携会議等の開催（医師、歯科医師、薬剤師、医療機関等との連携）

(三師会・在宅医療相談室)

- ・在宅医療・介護サービスとの調整等に関する相談
- ・多職種連携会議、事例検討会開催
- ・在宅医療に関する市民啓発
- ・病院と地域の診療所の連携強化
- ・連携ハンドブックかなざわの改訂・連携ツールの作成



連携ハンドブックかなざわ

(消防)

- ・市民に向けた在宅医療の普及啓発（救急受診ガイド、救急車の適正利用）

(4) 認知症対策

認知症の予防や認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられることが大切です。

【2025年に向けた目標】

- 認知症予防対策を推進します。
- 認知症の重症化を防ぐために、早期診断・早期対応に向けた支援を進めます。また、認知症の方を地域で見守り、地域の中で助け合える仕組みづくりを行います。

【取組の方向性】

各種事業や様々なネットワークを通じて、認知症により見守りが必要な人を発見し、身近な地域の中で助けあえる仕組みをつくります。

また、認知症初期集中支援チームが中心となり認知症の方やその家族を認

知症初期の段階から支えていきます。

【関係団体の役割分担】

(区役所)

- ・普及啓発・講演会等の実施
- ・認知症サポーター養成講座の実施や開催支援
- ・認知症初期集中支援チームの周知、チームによる課題解決
- ・はいかい高齢者SOSネットワークの充実強化、事業者拡大
- ・虐待防止・権利擁護事業の推進

(区社会福祉協議会)

- ・認知症サポーターの組織化・活動支援
- ・認知症カフェ等の地域活動の支援
- ・ボランティア活動やサロンづくりの支援



認知症キャラバン・メイト連絡会

(地域ケアプラザ)

- ・認知症サポーター養成講座の実施や開催支援
- ・認知症キャラバン・メイトの地域ケアプラザ圏域での連携体制づくり
- ・認知症カフェ等の地域活動の支援
- ・ボランティア活動やサロンづくりの支援
- ・介護者のつどいの実施

(三師会・在宅医療相談室)

- ・医療・介護連携の会議や研修等を通じた認知症に関する連携の検討
- ・認知症疾患医療センターを中心とした切れ目ない認知症医療体制の構築



地域の課題解決や魅力づくりに向けた活動を支援するために、横浜市や社会福祉協議会等では、多様な支援制度を用意しています。ここでは、各種補助制度を活用した事例を紹介します。

★介護予防・生活支援サービス補助事業★

地域で『要支援者等』に対する介護予防や生活支援の活動を行う団体に、その活動に係る費用を補助します。（健康福祉局高齢在宅支援課所管）

さくら茶屋にししば

地域住民がみんなで支え合う居場所として 2010 年に活動開始後、買い物サポート、つながりステーション、認知症カフェ等、様々な活動を展開してきました。2017 年には介護予防・生活支援サービス補助事業を活用し、要支援者向けの活動も開始し、活動の幅を広げています。

小道具を使った簡身体操

★空き家等を活用した地域の「茶の間」支援事業★

空き家・空き店舗等を活用し、多世代交流、子育て支援、高齢者の生活支援などの取組を支援します。（地域振興課所管）

富岡サロンジュピのえんがわ

古民家を地域交流の場所にするため、補助金を活用して建物の改装工事を行い、利用者が安心してひとときを過ごせるサロンへのリニューアルを実現しました。



えんがわ de お茶会

★福祉保健活動促進補助金★

地域で行う福祉保健活動に対し、補助金を交付します。（福祉保健課所管）
例えば、町内会活動のヨガに必要な物品の購入などにも活用されています。



横浜市 金沢区役所 高齢・障害支援課
〒236-0021 横浜市金沢区泥亀二丁目9番1号
TEL: 045-788-7779
FAX: 045-786-8872
平成30年3月発行